

カーボンニュートラルを実現する、夢のエネルギー源。
環境メガトレンド投資の大本命

ワンポイント
One Point

水素

nikko am
Nikko Asset Management

vol.29

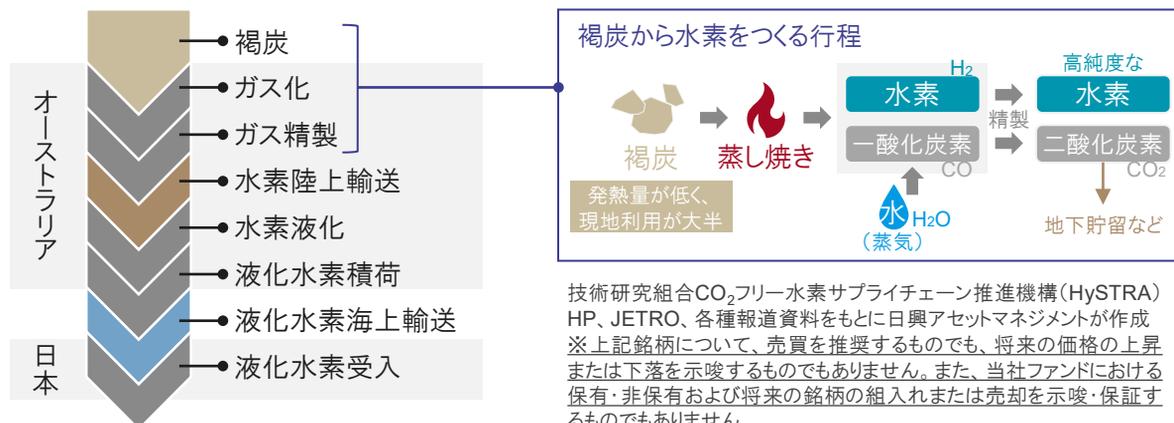
日豪が取り組む水素サプライチェーンの構築

日々の生活で水素を使うことが当たり前な「水素社会」の実現の鍵の一つは、水素の安定供給です。岩谷産業や川崎重工、シェルジャパンも参入し、オーストラリアとの間で進める「水素エネルギーサプライチェーン(HESC)プロジェクト」は、この課題に挑み、成果を出しつつあります。

プロジェクトは、低品位な石炭である褐炭を使って、オーストラリアで高純度の水素をつくり、それを-253℃に冷却して液化水素にしたうえで、日本に海上輸送するというもの。世界初の液化水素運搬船「すいそ ふろんていあ」には、液化天然ガス(LNG)運搬船の建造技術などのノウハウが活かされており、2022年に実証を完了し、2030年ごろの商用化を目指しています。

地球上に豊富に存在し、次世代のエネルギー資源として注目される水素。エネルギー安全保障や脱炭素化機運の高まりから、化石燃料の産出国が輸出規制や温室効果ガスの排出規制を強める中、水素の実用化に向けて歩を進める企業の動きから目が離せません。

■ 水素サプライチェーン



○当資料は、日興アセットマネジメントが「水素」についてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。○投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産は為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。